

2023年度「県民の日学校ホリデー」の取組状況

1 実施状況

- 「あいち県民の日」の制定を契機に、「あいちウィーク」期間中の1日を学校休業日とするもので、全54市町村の公立学校（幼・小・中・高・特支）と全ての県立学校（高・特支）で実施された。

実施校数

校種 実施日	幼稚園	小学校	中学校	義務教育 学校	小計	高等 学校	特別支援 学校	合計
11/21(火)						9		9校
11/22(水)						39		39校
11/24(金)	34	799	340	2	1,175	72	33	1,280園校
11/27(月)		115	51		166	44	4	214校
その他		47	20		67			67校
合計	34	961	411	2	1,408	164	37	1,609園校

市町村

市町村立学校の休業日

- 11/24 : 47 市町村
 - 11/27 : 5 市町村
 - その他 : 2 市町村
- (県立学校は、学校ごとに設定)



小中学校

54市町村教育委員会がアンケート調査に回答した。

県立学校

生徒19,993名、保護者18,634名、教職員3,336名がアンケート調査に回答した。

2 主な成果

(1) 子供・保護者に大きな満足感

- 小中**・ 保護者からは、「自営業で土日は仕事だったが、学校ホリデーのおかげで、久しぶりに子供と遊びに行くことができた」、「学校ホリデーをきっかけに休暇の申請をして、子供と一緒に過ごせた。自分自身の気分転換にもなった」など、充実した休日を過ごせたという声があった。
- 県立**・ 生徒からは、「ゆとりが増えた」、「家族とのふれあいが増えた」、「混雑する施設に行きやすくなった」など、効果を実感する声が多数あった。
 - 保護者からは、「子供のゆとりが増えた」、「土日は混雑する施設が、平日はすいているため、行きやすくなった」、「土日に休みづらいので、学校ホリデーで家族のふれあいが増えた」など、前向きな回答があった。

(2) 教職員の有給休暇取得が促進

- 小中**・ 公立小中学校では、学校閉庁日とすることで、教職員の積極的な有給休暇取得を促すことができ、学校ホリデーを含むあいちウィークにほとんどの教職員が有給休暇を取得した。

自校の学校ホリデー：約95%^{※1}、自校の学校ホリデー以外：約5%^{※1}

(※1 時間休を含む。)

市町村全体で学校閉庁日とした市町村

46市町村

- 県立**・ 県立高校・特別支援学校では、学校ホリデーを含むあいちウィークに多くの教職員が有給休暇を取得した。

自校の学校ホリデー：約66%^{※2}、自校の学校ホリデー以外：約13%^{※2}

(※2 時間休を含まない。)

- 県立高校・特別支援学校の教職員が「休みを取りやすくなった」、「生徒のゆとりが増えた」など、効果を実感している。

(3) 市町村の協力により効果が増大

- 小中** ・ 多くの市町村教育委員会が3連休または4連休となるように学校ホリデーを設定し、愛知県独自の連休をつくったことにより、保護者から「家族で秋の連休を楽しむことができた」という声が多くあがった。
- ・ 市町村が所管する図書館、美術館、体育館などを臨時開館、無料開放したり、親子で楽しめる各種イベントやスポーツ大会を開催したりすることにより、有意義な学校ホリデーとなった。
- ・ 一宮市や東浦町では、学校ホリデーを盛り上げるために、イベントをまとめた独自のチラシが作成された。

3 今後の改善ポイント

(1) 企業への理解促進

- 県立
小中** ・ 保護者から「学校ホリデーのために仕事を休むことが難しかった」などの声があった。
 - 企業に「県民の日学校ホリデー」について、より一層の理解促進を図り、休暇の取りやすい職場環境づくりを進めていただけると呼び掛ける。

(2) 子供・保護者への理解促進

- 県立
小中** ・ 子供や保護者から「学校ホリデーの意義がよくわからない」「学校ホリデーの日に勉強をしていた」などの声があった。
 - 子供や保護者に「あいちウィーク」や「県民の日学校ホリデー」の趣旨をさらに周知し、学校ホリデーをより有効に活用していただけるよう、一層の理解促進を図る。